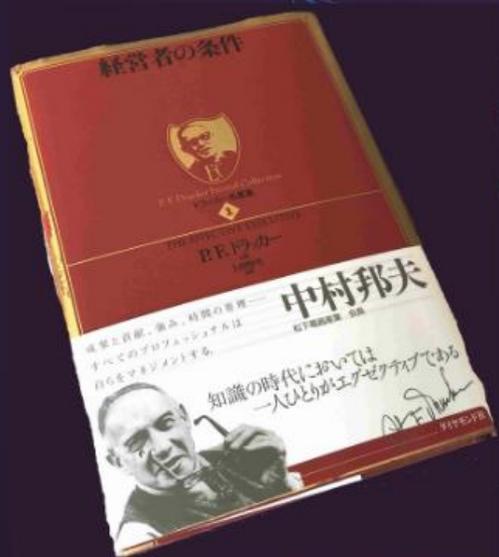


# コーチング×ドラッカー研究会



ドラッカー学会公認の研究グループです。

コーチングとドラッカーを掛け算すれば何が生まれるのか？  
広い観点から新たな気づきや学びを得ることを目的とする。

興味がある方でしたらどなたでも参加可能です。

※ここでの「コーチング」は国際コーチング連盟（ICF）の倫理規定とコアコンピテンシーに準じます。

# Agenda

- ① 学会とは何か？（そもそも）
- ② NPO法人ドラッカー学会の目指している目的と成果とは何か？
- ③ ②の目的を達成するための研究グループの目的と成果とは何か？
- ④ ③に当てはまる当研究会の目的と成果とは何か？
- ⑤ 当研究会の計画は何か？
- ⑥ 当研究会の現在の成果は何か？

# ①学会とは何か？

組織の中に成果は存在しない。すべての成果は外にある。（『経営者の条件』P.31）

学会（がっかい、英語: learned society、scholarly society、academic associationなど）は、**学問や研究の従事者らが、自己の研究成果を公開発表し、その科学的妥当性をオープンな場で検討論議する場**である。また同時に、査読、研究発表会、講演会、学会誌、学術論文誌などの研究成果の発表の場を提供する業務や、研究者同士の交流、文化団体として学者の利益を代表するなどの役目も果たす機関でもある。（Wikipediaより）

## はじめに 「論文」とは何か？ ～本質行動学テキストまえがきより

学問的態度の前提=人類への貢献  
↳バトンをつなぐ  
\* 学問を専門にすると、アウトプットが目的化してしまい、空理空論生産システムになってしまいがち=象牙の塔へ

学問にとって論文というのは、いわば、レンガのようなものです。論文というレンガをひとつひとつ積み上げて、学問は高みに上っていくのです。このため、論文は普通、過去の研究がどのようなものだったのか、その土台の上にこの論文がどんなレンガ一個を積み上げようとしているのか、ということを説明し、その上で、積み上げる内容を書く、という構成になっています（「問題」部分）。そして最後には、次のレンガはこういうものが求められる、という次の研究の方向性を示唆して終わるのが通例です（「考察」の最後）。



論文（査読付き）、専門書  
=良いレンガ

一般書  
=いまいちなレンガ

記事やインタビュー  
=焼き直した方がいいレンガ

はじめに 「論文」とは何か？ ～本質行動学テキストまえがきより



## 研究のOUTPUTが論文

論文に必要なもの  
=リサーチクエスチョン  
(研究的疑問)

つまりは、どんなレンガを  
積もうとしているのか？

←学会はこれを成果として  
生み出すために存在している（はず）。

↳ドラッカー的に言えば、団体として論文という  
アウトプットを成果とするのではなく、  
その論文によって世の中にどれだけ良い影響が  
与えられたか？というアウトカムが**成果**

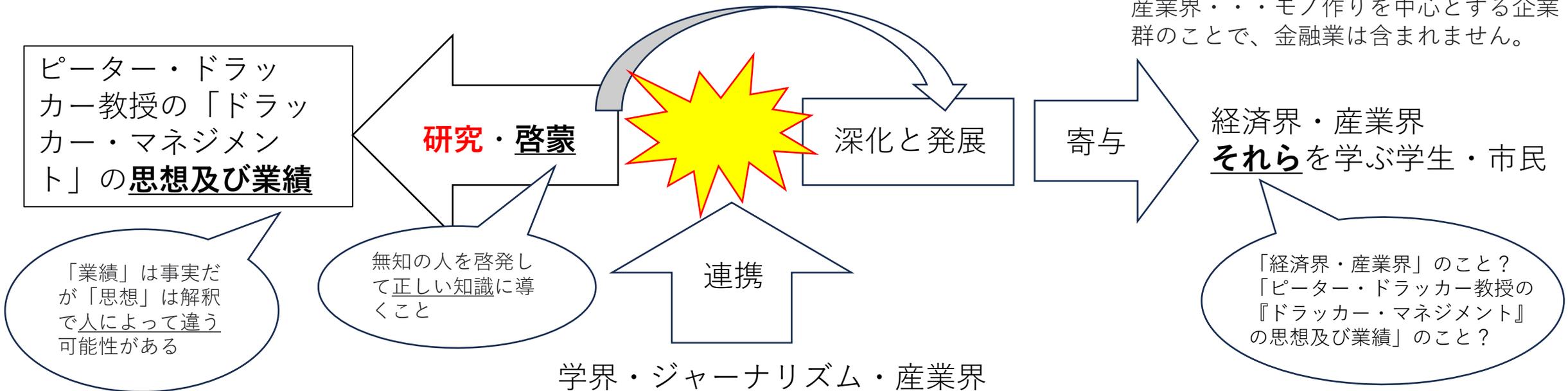
普通は論文の被引用数で  
「影響」を測ることが多い

## ②NPO法人ドラッカー学会の目指している目的と成果とは何か？

学会の目的（定款第3条より）

この法人は、ピーター・ドラッカー教授の「ドラッカー・マネジメント」の思想及び業績を**研究・啓蒙**し、学界・ジャーナリズム・産業界との連携に基づき、その深化と発展を図ることにより、経済界・産業界並びにそれらを学ぶ学生・市民に広く寄与することを目的とする。

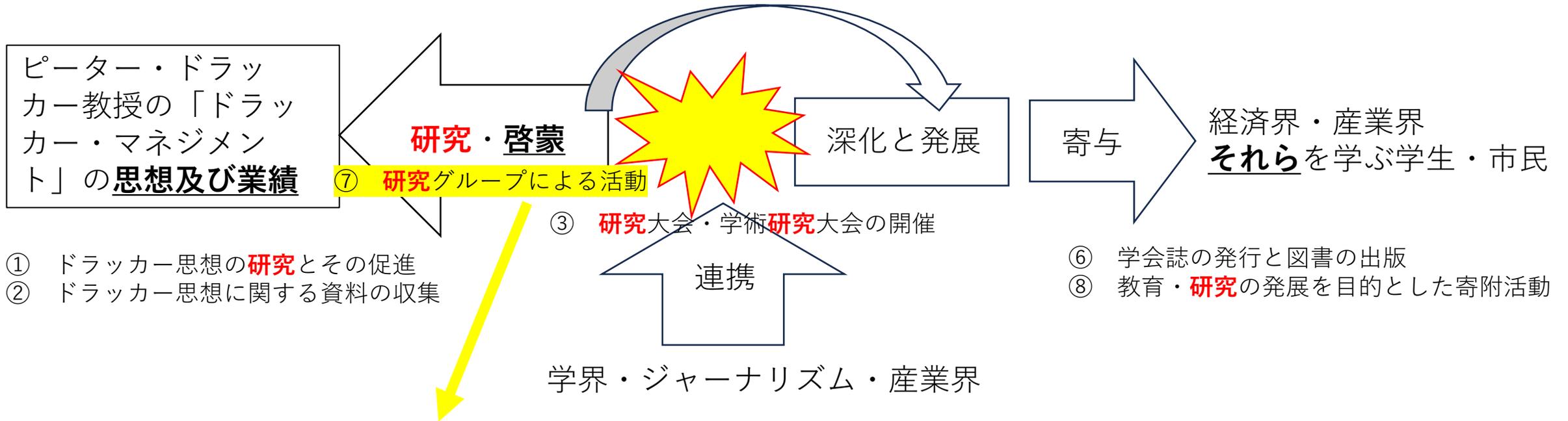
経済界・・・経済活動を行なっている世界全般を指します。  
産業界・・・モノ作りを中心とする企業群のことで、金融業は含まれません。



得るべき教訓は、待ってはいはならないということである。**体系的にイノベーションを行うよう態勢を整えなければならない。組織の内外においてイノベーションの機会を追求する仕組み**をつくっておかなければならない。イノベーションの機会として変化を見つけられるようになっていなければならない。（『非営利組織の経営』P.13）

# ③②の目的を達成するための研究グループの目的と成果とは何か？

- ④ 公開セミナー・ドラッカー思想を広めるための講座の開催
- ⑤ ウェブを利用したの情報公開



研究グループによる活動 = 「チームによる研究活動の場」と考えられる。

チームをつくるには人から始めてはならない。なされるべき仕事から始めなければならない。「なされるべきことは何か」を考え、次いで「鍵となる活動は何か」を考える。  
(『非営利組織の経営』 P.171)

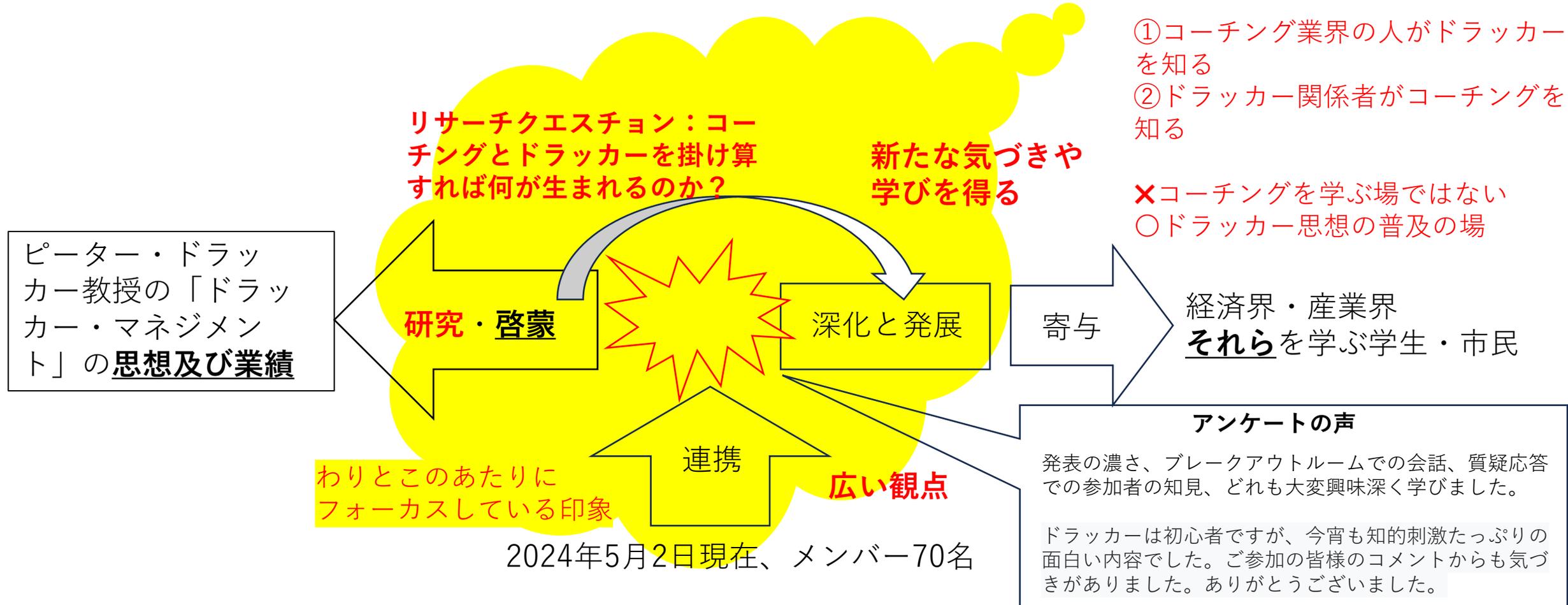
よくある間違いは、同じチームにいる者として、みな同じように考え、同じように行動するものと思ってしまうことである。しかしチームの目的は、**メンバーの強みをフルに発揮させ、弱みを意味のないものにする**ことである。こうして一人ひとりが力を発揮する。大事なことは**一人ひとりの強みを共同の働きにむすびつける**ことである。(『非営利組織の経営』 P.171)

# ④③に当てはまる当研究会の目的と成果とは何か？

研究グループの目的：**コーチングとドラッカーを掛け算すれば何が生まれるのか？** 広い観点から新たな気づきや学びを得ることを目的とする。

参加要件：興味がある方でしたらどなたでも参加可能です。

※ここでの「コーチング」は国際コーチング連盟（ICF）の倫理規定とコアコンピテンシーに準じます。



## ⑤当研究会の計画は何か？

活動内容：

担当者が隔月で発表をし、参加者全員で発表に関する質疑応答や、全体・ブレイクアウトルームでのディスカッションを行って学びを深めます。

参加者は、コーチングをこれから学ぼうとする人からプロコーチまで多岐にわたり、それぞれのバックグラウンドを反映する意見や気づきのシェアにより、さまざまな視点からドラッカーの学びを体感する場を提供します。

2024年開催日程

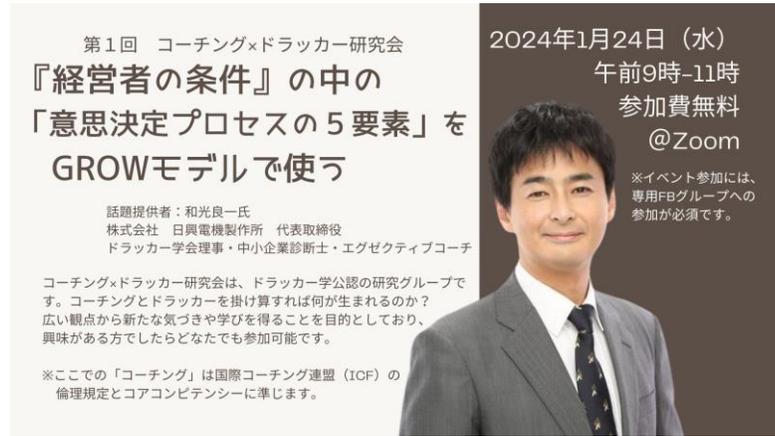
- 1 1月24日（水） 9：00～11：00  
和光 良一 『経営者の条件』の中の「意思決定プロセスの5要素」をGROWモデルで使う
- 2 3月27日（水） 19：30～21：30  
鶴巣 和徳 素晴らしきコーチとしてのドラッカー
- 3 5月8日（水） 19：30～21：30  
原口 佳典 ICFのコア・コンピテンシーとドラッカーの「聞け、話すな」のマネジメント
- 4 7月24日（水） 19：30～21：30  
長島 明子 コーチがドラッカーを学ぶ
- 5 9月開催予定
- 6 11月開催予定

7月までは設立メンバーの発表、9月からは参加メンバーによる発表

メンバーの強みをフルに発揮！

## ⑥当研究会の現在の成果は何か？

### 第1回 『経営者の条件』の「意思決定プロセスの5要素」と、コーチングのGROWモデルとの関連を明らかに



第1回 コーチングxドラッカー研究会  
『経営者の条件』の中の  
「意思決定プロセスの5要素」を  
GROWモデルで使う

2024年1月24日(水)  
午前9時-11時  
参加費無料  
@Zoom

話題提供者: 和光良一氏  
株式会社 日興電機製作所 代表取締役  
ドラッカー学会理事・中小企業診断士・エグゼクティブコーチ

コーチングxドラッカー研究会は、ドラッカー学公認の研究グループです。コーチングとドラッカーを掛け算すれば何が生まれるのか? 広い観点から新たな気づきや学びを得ることを目的としており、興味がある方でしたらどなたでも参加可能です。

※ここでの「コーチング」は国際コーチング連盟 (ICF) の倫理規定とコアコンピテンシーに準じます。

今まで苦手と思って避けてしまっていたドラッカーが、コーチングとつながることで身近に感じることができました。もう少し自分のなかで肚落ちさせ、実践につなげていきたいと思います。ありがとうございました！！

意思決定は「答えを出す」ではないことに衝撃を受けました。また、GROWモデルとどのように結びつけるのか興味がありましたが、実践からふと気づいた思考過程をお話していただき、とてもイメージしやすかったです。そして、そのアイディアにもワクワクしました。ロールモデルである上司の行動がここにあったかと発見できたようで嬉しさもありました。とても有意義でとても楽しかったです。ありがとうございました。

### 第2回 ドラッカーの「問い」を起点にした考え方とコーチングの「質問」との共通点を明らかに



第2回 コーチングxドラッカー研究会  
素晴らしきコーチと  
してのドラッカー

2024年3月27日(水) 19:30から21:30予定 @ZOOM

発表者 鶴巢和徳(とうのすかずのり)氏  
青空企画代表 ドラッカー学会会員  
GALLUP社認定ストレングスコーチ

ご興味ある方でしたらどなたでも参加  
できますが、専用FBグループに御参  
加いただく必要があります。

ドラッカーさんの考えは、組織に属する全ての人に当てはまり、この思考プロセスを日常に取り入れ対話できる風土が定着すると組織の質は高まりブランド力や成果も向上するのではないかと思います。

これまで、ドラッカーの魅力が今ひとつわからなかったのですが、鶴巢さんのお話が大変わかりやすく、初めて、ドラッカーの凄さがわかったように思いました。ドラッカーのいう「マネジメント」とは、人が人と関わって生きて行く上で、「人が幸せになる」方法を説いた、本質なんだとわかりました。何にでも応用できると思いました。ありがとうございました。

## ⑥当研究会の現在の成果は何か？

### 第3回 ドラッカーはなぜコーチングについて言及しなかったのか？を「マズローの批判」から推察



**ICFコア・コンピテンシーと  
ドラッカーの「聞け、話すな」  
のマネジメント**

コーチング×ドラッカー研究会 主催  
(ドラッカー学会公認研究グループ)

担当：原口佳典 (株式会社コーチングバンク)

\* 関心のある方でしたらどなたでも参加できますが、  
専用Facebookグループへの登録が必要です。

2024.5.8. PM19:30-21:30

コーチングの歴史から紐解くコアコンピテンシーのお話は、コアコンピテンシーを理解する上で、とてもありがたかったです。コーチング前史の黒歴史の反省から、今のコアコンピテンシーがあるというのは、ナチの反省からドラッカーが生み出したマネジメントと、位置づけとして合い通じるところがあり、ドラッカーがコーチングに言及しなかった遠因になっているという考察は、大変興味深く大いに有り得ることだと思いました。

コンピテンシーから始まり、コーチングとドラッカーの相関的な流れを時系列にご説明いただき、点と流れが見えてきました（大枠ですが）。今後の学びにおいても、この流れを意識すると理解が深まるように思います。ありがとうございます。また、現在のコーチングに対しての危惧などもお話いただき、今後の研究がそれとどのように関連し、業界全体がよき方向に向かっていくのか、注目しております。



第4回 コーチング×ドラッカー研究会

**『コーチがドラッカーを学ぶ』**

2024年7月24日(水) 19:30~21:30予定 @ZOOM

担当：長島明子 (ながしまあきこ)  
一般社団法人コーチングスカイ 代表理事  
一般社団法人日本エグゼクティブコーチ協会 理事

ご興味ある方でしたら、どなたでも参加できます。  
専用グループページへご参加いただく必要があります。

### 第4回 コーチング×ドラッカー研究会

#### 「コーチがドラッカーを学ぶ」

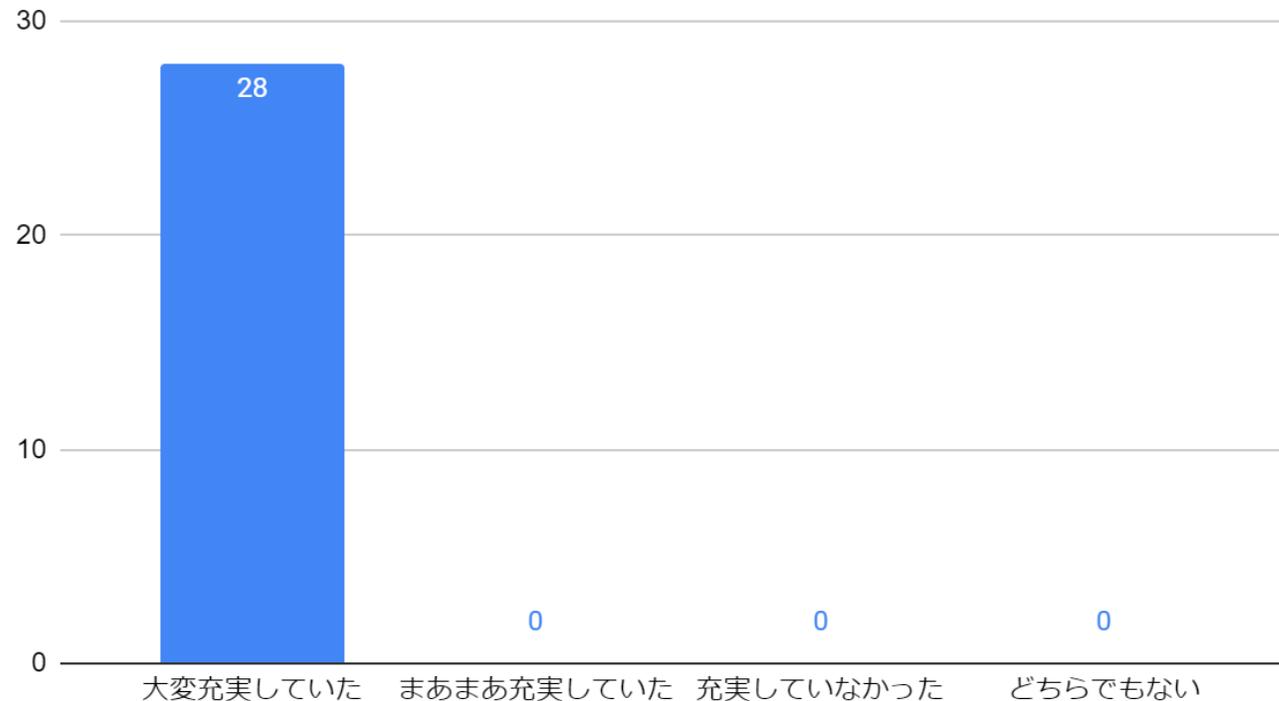
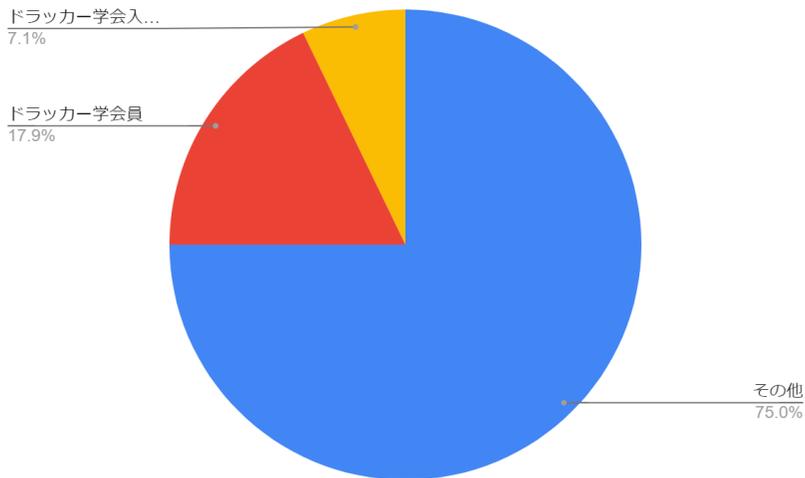
2024年7月24日（水） 19:30から21:30予定

御興味ある方ならどなたでも参加できますが、下記、専用FBグループへの御参加が条件となります。

<https://www.facebook.com/groups/coachingdrucker>

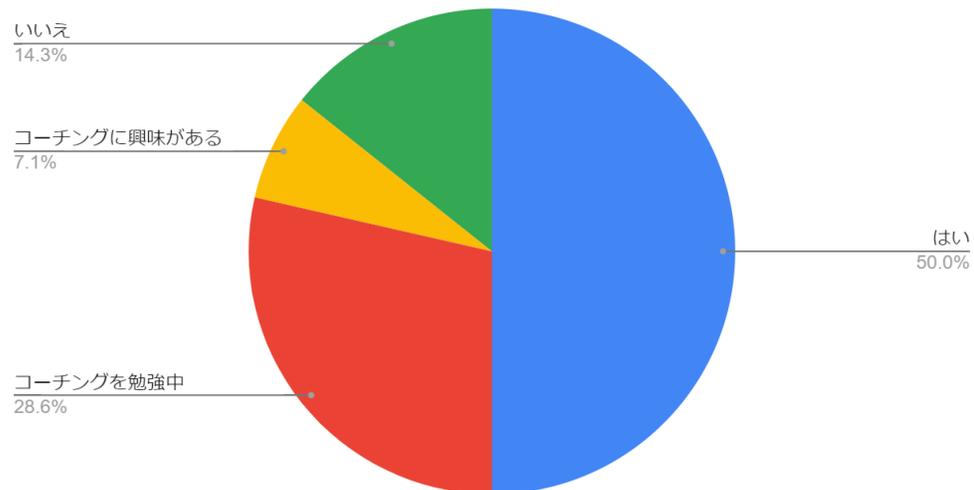
## ⑥当研究会の現在の成果は何か？（アンケート集計結果）

### 会員区分



本日参加の充実度をお聞かせください。

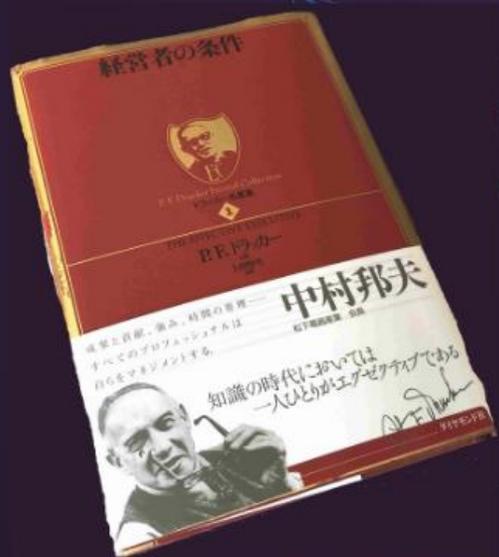
### あなたはプロのコーチですか？



現在の参加者はコーチング業界寄り、ドラッカー関係者ももう少し増えて欲しい。

（ただし、ドラッカー「業界」の外への貢献活動とは言える。）  
今後、研究会での研究成果が学会誌へ掲載されることで、学会員増にもつなげていきたい。

# コーチング×ドラッカー研究会



ドラッカー学会公認の研究グループです。

コーチングとドラッカーを掛け算すれば何が生まれるのか？  
広い観点から新たな気づきや学びを得ることを目的とする。

興味がある方でしたらどなたでも参加可能です。

※ここでの「コーチング」は国際コーチング連盟（ICF）の倫理規定とコアコンピテンシーに準じます。